

もうすぐ夏至を迎える季節、梅雨入りもそろそろです。今年は6月に入ってから、遅いペンテコステになりました。四重の福音と共に、聖霊の満たしを祈りましょう。

人々のあざけり

いつとき『嫌われる勇気』と言う本がベストセラーになりましたが、島国に生きる私たちにとって、周囲の評判を大事にすることは、何よりも大きな優先順位になっています。ことに、宗教というだけで、胡散臭い目で見られるのが日本ですから、ちょっとでも「怪しい」と思われないように、教会も神経を使っていると言えるでしょう。

しかし一方で、大衆の意見というものは、コロコロと手のひらを返します。女性がアナウンサーをするなんて、オーケストラに合唱を盛り込むなんて、自分を神の子と呼ぶなんて、けしからん、邪道だ、罰当たりだ、と烏合の衆が叫んでも、いつの間にか、人気の女子アナは高視聴率をとり、歓喜の歌は世界が誇る平和の讃歌となり、権威あるキリスト教は世界人口の3割を占めるようになりました。

ペンテコステと言う教会の始まりから、あざける者がいて、「酔っ払いと同じだ」「気が狂っている」「悪霊に憑かれている」と非難されたことは、心に留めておきましょう。ホーリネス信仰も、「邪道だ」「神学を持っていない」と、バカにされた経緯があります。使徒たちも、私たちの先輩たちも、バカにされても、迫害されても、喜びに満たされて福音を語り、ホーリネス信仰を守り通しました。今や、初代教会を、弾圧をくぐり抜けた信仰者たちを、あざける人はいません。私たちも同じ情熱を持って、ホーリネス信仰を掲げ、かけがえのない聖霊の満たしを受ける者となることを、願い求めましょう。

登場人物になろう

聖書は未完の書である、と言われます。もちろん聖書は66巻で閉じられましたが、教会の歴史は今も書き綴られており、天地創造から始まって、現在進行形で続いていると言う意味です。そうすると、私たち一人ひとりも、聖書の登場人物だということです。物語に登場するキャラクターは、作者の意図があります。話の筋に合わない動きをするキャラクターは、カットされるでしょうし、何もしない登場人物は、単なるオーディエンスに過ぎません。主の御心は、全世界に福音が述べ伝えられることです。私たちの指名は、人々を救うことです。

東の果ての島国の私たちが、登場人物に、選ばれた理由はここに 있습니다。悩み、立ち止まり、ぶつかり、そこから気づき、前進し、力を合わせていく、そのすべてが、証しです。それが面白いし、人々の心を動かします。私たちは、たとえ人々から笑われる事があっても、教会のストーリーで、神様の愛を語る、ユニークなキャラクターであり続けましょう。人の声ではなく、主の言葉に耳を傾けましょう。そのために、聖霊の満たしを受けましょう。聖潔を求めて、祈りましょう。燃やされる命を、生きましょう。